

立命館大学国際言語文化研究所  
文化の移動と紛争的 インターフェース/ジェノサイドと奴隷制部門

# ガリツィア・ユダヤ博物館巡回展記念 「記憶の跡をたどって」 ミニレクチャー



2020年

11月29日 (日)

14:00 - 17:00

*Traces of Memory*  
*A Contemporary Look at the Jewish Past in Poland*

日時・場所

神戸会場：2020年10月19日～11月9日

ひょうご国際プラザ交流ギャラリー（平日10:30-17:00、土日・休日は休館）

京都会場：2020年11月16日～12月7日

立命館大学平井嘉一郎記念図書館（平日8:30-22:00、土日10:00-17:00）

東京会場：2020年12月14日～22日

千代田区立九段生涯学習館（9:00-21:00、12月21日は休館）

主催：ガリツィア・ユダヤ博物館、東京外国語大学海外事情研究所、「記憶の跡をたどって」実行委員会  
神戸会場：神戸大学国際人間科学部・兵庫県国際交流協会  
京都会場：立命館大学国際言語文化研究所・立命館大学図書館  
東京会場：千代田区  
協賛・助成：ポーランド文化・国民遺産省  
後援：ポーランド広報文化センター



創思館カンファレンスルーム

予約先：[masnis24@ce.ritsumeai.ac.jp](mailto:masnis24@ce.ritsumeai.ac.jp)

◆予約の際は件名に「記憶の跡をたどってミニレクチャー申込」と明記のうえ、送信文に①氏名、②メールアドレスをご記入下さい。

司会：西成彦（立命館大学特任教授）

講師：篠原琢（東京外国語大学教授）

西村木綿（日本学術振興会特別研究員PD）

田中壮泰（立命館大学非常勤講師）

本企画は、科研費・基盤研究(C)：「ホロコースト文学」における語圏間の隣接性に関する比較文学的研究（20K00531）のサポートを受けています。

**要予約**  
**（先着30名）**  
前日深夜までにご予約下さい

主催：立命館大学国際言語文化研究所  
お問合せ：立命館国際言語文化研究所（西成彦）  
E-Mail [masnis24@ce.ritsumeai.ac.jp](mailto:masnis24@ce.ritsumeai.ac.jp)

ポーランドでは過去千年以上にわたって、ユダヤ人の文明が発展し、大きな創造力と生命力を発揮してきた。1920年代まで、ポーランドは世界最大のユダヤ社会を擁していたが、それはホロコーストによって暴力的に破壊されてしまった。ポーランドにおけるユダヤ人の長い歴史はアウシュヴィッツとジェノサイドのイメージの影に隠されてしまったのである。ここではユダヤ人の過去を全体として理解するために、別のイメージを提示することにしよう。かつてユダヤ人の生活が花開いた町々や村々に見出される記憶の痕跡である。一時は永遠に失われてしまったかのようなこれらの痕跡は、今日、記憶に留められつつある。

これは歴史の展覧会ではない。今日に残るユダヤ人の生活と文化の断片をまとめてひとつの絵を描き出すこと、その痕跡を記録し、解釈することを展覧会は目的としている。それを知り、身近なものと感じ、そして考えてみよう。(巡回展覧会・趣旨文)

本ミニレクチャーでは、東欧史、東欧文学のなかでも、ユダヤ人集団の地域社会・地域文化への寄与について研究する方々の協力を得ながら、目を通じて触れた「過去」を、学知と言葉でおぎなうという試みとしたい。

また、第二次世界大戦終結から75年(四分の三世紀)を経たこの年に、さらに「ポーランドで起きたジェノサイド」について日本で語ることを意義を問い直すことができれば幸いである。

## 【司会者と講師の紹介】

西成彦(編訳)『世界イディッシュ語短篇選』岩波書店、2018年。

西成彦(編訳)『不浄の血／アイザック・バシェヴィス・シンガー傑作選』河出書房新社、2013年。

西成彦『移動文学論(Ⅱ)エクストラテリトリアル』作品社、2008年。

Taku Shinohara, "Defining the public sphere through cultural boundaries: Creating a 'Czech' national society in Nineteenth-century Bohemia", in Yoko Aoshima (ed.), *Entangled interactions between religion and national consciousness in Central and Eastern Europe*, Boston, 2020.

篠原琢『『ユダヤ文化』の復興？—ポーランドにおける多文化社会の再構築の試み』、長谷部ほか(編著)『多文化社会読本』東京外国語大学出版会、2016年。

篠原琢(編著)『ハプスブルク帝国政治文化史—継承される正統性』、昭和堂、2012年。

Yuu Nishimura and Mari Nomura (eds.), *Polish-Jewish Relations and Anti-Semitism in Interwar Poland: Proceedings of the International Seminar*, Kanazawa University, 2018.

西村木綿「文化自治の最後の灯火——第二次世界大戦前夜のポーランドにおけるイディッシュ学校」赤尾光春・向井直己(編)『ユダヤ人と自治——中東欧・ロシアにおけるディアスポラ共同体の興亡』岩波書店、2017年。

西村木綿「両大戦間期ポーランドにおけるイディッシュ世俗学校運動の生成と展開: 文化的民族自治イディシズム、学校共同体」、『東欧史研究』第37号、2015年。

Moriyasu Tanaka, "Žagary and Yung Vilne: The Polysystem of Interwar Vilnius", in Yuu Nishimura and Mari Nomura (eds.), *Polish-Jewish Relations and Anti-Semitism in Interwar Poland: Proceedings of the International Seminar*. Kanazawa University, 2018.

田中壮泰「塹壕の外の東部戦線——ゴンブローヴィチ、ヴィトリン、ロート」、渡辺公三・石田智恵・富田敬大(編)『異貌の同時代——人類・学・の外へ』、以文社、2017年。

田中壮泰「二言語詩人フォーゲル」、『スラヴ学論集』第17号、2015年。